オイルシェール開発事情

ヨルダンのオイルシェールに外国企業が
そのなかには欧州の石油メジャーも

先月、「ヨルダンに存在する 400 億トンのオイルシェールから油を取り出すための Royal Dutch Shellとの契約交渉が最終段階にある」（8 月 11 日、Thomson Financial）とヨルダンの天然資源局のトップが語っています。

その一カ月前に、「Royal Dutch Shell はヨルダンのオイルシェールの油の開発に関わる利権契約を締結する最終段階にある。この契約はヨルダン政府および議会の承認が必要である」（7 月 13 日、Dow Jones International News）と報じられています。

今月中に合意に達するといわれています。

ヨルダンのオイルシェールの埋蔵量は世界第 4 位といわれますが、同国は消費する石油の大部分を輸入しています。

Shell Exploration & Production は、「米国のコロラド州で開発試験中の in situ 技術をヨルダンに持ち込む考え」（8 月 11 日、Cox News Service）です。

この技術はかなり前に以下のレポートで紹介したことがあります。

http://www.pecj.or.jp/japanese/division/division07/pdf/2004/2004041.pdf

（抜粋）

- 同社は、地表の破壊を最小限にとどめて内部の油を取り出す革新的な技術 In-situ 転換プロセスを開発した。フィールド実験に数千万ドルもの大金を費やしたとのことである。

- この技術は、地表にドリルで空けた穴の中に電気ヒーターまたはガスヒーターを入れ、時間をかけて岩層をゆっくり加熱することによって、油は中心に空けられた穴に向かって流れ、2 年後にそこからポンプで吸い上げることができる。得られた油には不純物がほとんどなく、従来の油や合成原油よりもはるかにクリーンといわれている。

そのほか

オイルシェールの利用が盛んなエストニアおよびブラジルなどの企業がヨルダンのオイルシェールに関心があります。

ブラジルの場合は国営石油会社 Petrobras です。

同社は、オイルシェールから油を取り出す Petrosix と呼ばれる独自のプロセスを開発し、「1992 年 1 月 17 日に約 4,000 bpd の能力の装置の運転を開始」（1992 年 1 月 24 日、International Gas Report Financial Times Business Information Ltd.）して、現在も生産を続けています。

同社は昨年末に、「Total E&P Activites Petrolieres（Total の子会社）と、アフリカおよび中東の特定地域でのオイルシェールの探査、開発および油の生産の実行可能性の調査を協力して行なう契約を結んで」（2007 年 12 月 27 日、eSource Canada Business News Network）います。

特定地域とは、「モロッコおよびヨルダン」（2007 年 12 月 21 日、新華社）といわれています。

もしプロジェクトが実行可能と判断され、それぞれの会社の役員会で承認されれば、実施に移され Petrobras が操業者になるそうです。

中国、ロシアも

「ヨルダンのエネルギー・鉱物資源大臣がヨルダン駐在の中国大使とオイルシェールについて話をした」（6 月 4 日、BBC Monitoring Middle East）と報道されています。

「オイルシェールは 1950 年代には中国の石油の約半分を供給していた。しかし油田が発見され大量の原油が低価格で供給されたため、オイルシェール産業が衰退」（2006 年 11 月 13 日、Reuters）しました。

その中国が再びオイルシェールに取り組んでいます。

また、ヨルダン駐在のロシア大使が、ヨルダンの日刊紙 Al-Arab al-Yawm（6 月 21 日付）のインタビューのなかで、「ロシアの企業はオイルシェールの分野では実績がある」（6 月 25 日、BBC Monitoring Middle East）と語ったそうです。

ひとこと

オイルシェールはヨルダンの周辺国にも広く分布しています。

そのなかでヨルダンに石油メジャーを含めた外国企業が集まり始めたのは、契約条件に魅力があるため、といわれています。

（YY）

****

本レポートは、世界の 2500 紙以上の新聞、5500 紙以上のビジネス紙および業界紙、600 以上のニュースワイヤー（速報）/プレスリリース等を検索できるファクティバ（ダウ･ジョーンズ社のデータベースサービス）を利用して入手した多数の記事、レポートを比較、分析して執筆しています。（山崎由廣）